

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>



磯辺行久 《江戸障壁》

1965年/シルクスクリーン、レリーフプリント、紐、アクリル板、木、紙/200.2cm×299.0cm (北海道立帯広美術館蔵)

鶴や梅松をあしらった横須賀凧、写楽の役者絵「市川鯉蔵の竹村定之進」、火焰太鼓といった、よく知られた日本的な図柄が襖状に構成されています。描かれている世俗的な題材に加えて、折紙細工でも見るようなレリーフ状の表現にしても、版にインクをのせず空刷りするエンボスの技法にしても、いずれも即物的でキッチュな味わいを存分に押し出し、キワモノすれすれな「強さ」が際だつ造形といえましょう。

今から40年前、作品が発表された東京画廊の個展会場には、この作品を含め17面の襖が並んだと伝えられています。前後三本のレールにはめ込まれた襖をスライドさせると、このほかに盾型の小片(ワッペン)がおおう画面や、鉄腕アトムや天狗の仮面を貼り付けた画面などが互い違いに現れる仕掛けになっていたようです。

当時、美術界は「反芸術」という言葉に集約されるような、既成の芸術の枠組みを問い直すような動きのただ中にありました。そんな中で磯辺行久は、ワッペンなど都市生活に現れる記号的図像による斬新な作品を次々と発表する注目の前衛作家でした。この作品も「不在としてのトータルな存在」とか「可変性の追究」などともてはやされましたが、磯辺自身は「抽象芸術にしても、一般の人が興味を持てる作品でなければ意味がない。結局、芸術には通俗的な要素が必要なんです。永徳や宗達なら一応誰もが知っている…」と、難解な前衛芸術のありように疑問をもっていたようです。

日本の前衛が熱い時代を記録するこの秀作は、「開館15周年記念展」(平成19年1月25日～3月31日)に展示予定です。

(北海道立帯広美術館主任学芸員 平 利弘)

開館20周年記念 魅惑のシルクロード展

中央アジアのオアシス都市、ヒワ・サマルカンド・ブハラ、豊穡なる東西文明の交差点

北海道立函館美術館 学芸課長 佐藤 幸宏

開館二〇周年記念

一八年ぶりの文明展

一九八六（昭和六一）年九月に開館した北海道立函館美術館は、今年、開館二〇周年を迎えます。これを記念して当館ではさまざまな展覧会が予定されていますが、特にその第二弾となる「魅惑のシルクロード展」は、その中心的存在ともいえる今年度、最大規模の展覧会です。しかも、開館して間もない頃に開催された「古代エジプト展」（一九八七年）、「豊饒なるインド美術展」（一九八八年）以来の一八年ぶりの文明展となります。

シルクロード

文明の交差点

シルクロードは、中国北京から中央アジアを横断してヨーロッパや北アフリカを結んだ交易路です。この道は絹などの交易品だけでなく、その道をたどった人々とともにさまざまな文化、

宗教が行き交う文明の道でもありました。中央アジアのウズベキスタン、タジキスタンはまさにこのシルクロードの中央に位置し、サマルカンドなどのオアシス都市を有するシルクロードの要衝として東西交流の遺産を数多く生み出したのです。

オアシス都市

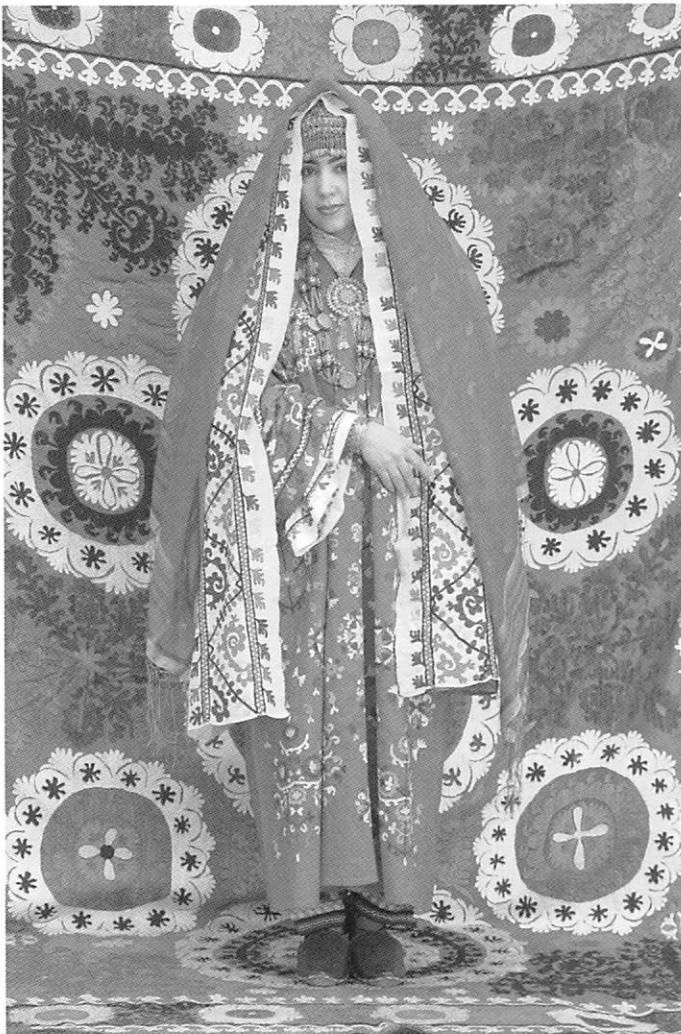
サマルカンド、ヒワ、ブハラ

とりわけこれら中央アジアのオアシス都市は、古代からシルクロード交易路のキャラバン・サライ、すなわち隊商宿として文化の繁栄を担ってきました。そこは単なる一時的な滞在地にとどまらず、時には交易の目的を果たす市場ともなつて、東西文明の重要な交流点の役割を果たしました。

大ティムール朝が栄えた

魅惑の都市サマルカンド、

一九九三年、「博物館都市」として世界遺産にも登録された神秘の都ヒワ、そして永遠なる古都ブハラ、現在のウズベキスタン共和国に今も残る各都市とその遺跡は、はるか古代の商人たちがたどったシルクロードの足跡を、現代の私たちにも思い描かせてくれます。



「クリャブの花嫁」
（タジキスタン民族学博物館所蔵品による）

イスラムの輝き――

華麗な花嫁衣裳

シルクロード＝絹の道という言葉が持つイメージから、さまざまな商品が通過していったという印象を与えがちですが、これらの都市では、絹織物や金工品、陶器をはじめとする美術工芸品が盛んに生産されました。建築、装飾タイル、壁掛け、家具、宝飾品、陶器などなど、独特の装飾文様と鮮やかな色彩が施された華やかな美術品の数々は、豊饒なイスラ

ム美術の精華ともいえるものです。

本展では、これらウズベキスタン、タジキスタンなど中央アジアの美術工芸品に加え、異国情緒豊かな花嫁衣裳を展示し、過去の歴史遺産だけでなく、現代にまで息づくその美的世界を約三〇〇点の作品によりご紹介いたします。

多彩なイベント

また展覧会会期中は、さまざまな関連事業も盛り沢山に予定されています。

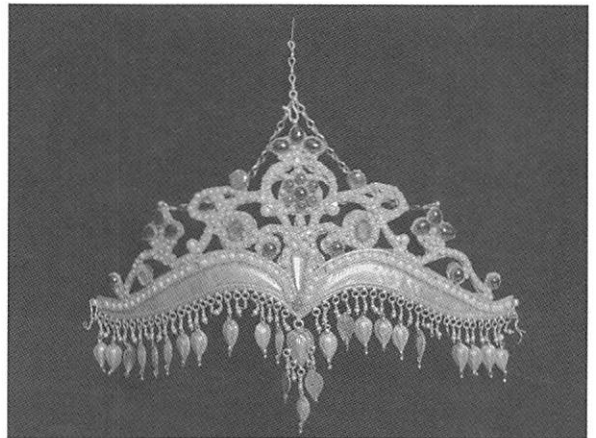


「水注（アブダスタ）」
コーカンド、19世紀中期、ウズベキスタン国立美術館

中央アジア、

シルクロード気分を満喫できる企画としては、コンサートと民族衣装コーナーが挙げられます。コンサート（六月一〇日開催、整理券制）では、札幌を中心に活動する嵯峨治彦氏による馬頭琴とホーミー（喉唄）の演奏が美術館内を中央アジア一色に染めます。そのエキゾチックな民族音楽の世界は、きつと出品作品と共鳴するに違いありません。

民族衣装のコーナーは、会期中の毎土日（各日午前一〇～一二時、午後一～三時）、展示室内に設置されたテント型の移動式住居



「花嫁用冠（ティッリャ・コシュ）」
タシケント、19世紀初期、ウズベキスタン国立美術館

ユルタで行われる予定です。大人と子ども用とが用意されたウズベキスタンの民族衣装を入場者が自由に試着して楽しめるコーナーです。ギャラリートークは、展示室内を担当学芸員の解説付きで鑑賞するもので、六月三日と七月一日の両日午後二時から実施されます（入場者は参加無料）。このほか、写真家・荻野矢慶期氏がウズベキスタンで撮影してきた貴重な写真の数々を展示したコーナー

（観覧無料）、シルクロードに関連する内容のビデオ上映会（五月二十七日、七月八日各午後二時、入場無料）など、中央アジア気分満点のイベントが白白押しになっています。

魅惑の

シルクロード展

2006年5月20日(土)

～7月9日(日)

函館美術館

休館日

月曜日

開館時間

午前9時30分～午後5時
（入場は午後4時30分まで）

観覧料（税込）

一般 10000(8000)円
高大生 6000(4500)円
小中生 4000(3000)円
※（ ）内は前売りおよび10名以上の団体料金、ミュージアム・コレクションと同時観覧の場合は、一般10500円
高大生6400円（税込）

近代美術館

光・動く彫刻 伊藤隆道展

四月五日(水)～五月一日(日)

道立近代美術館の東門脇に設置された《回転螺旋・一月》。伸びやかなカーブを描く金属パイプが、ゆるやかな回転にもなっていてユーモラスな動きを示すとともに、日の光や周囲の景色を映してきらめいています。

この動く彫刻の作者、伊藤隆道の大規模な個展をこの春に開催します。

一九三九年に札幌に生まれた伊藤は、一九六〇年代後半から金属パイプとモーターを用いた彫刻作品を制作し注目を集めてきました。また、札幌の風物詩ホワイト・イルミネーションの企画立

案に関わったり、近年では舞台美術を手がけたりと、彫刻・工芸・デザインという領域を越えて多彩な活動を繰り広げています。

それらの作品を彩るキーワードは、「動き」と「光」。静的で変化が少ないと思われがちな彫刻展ですが、今回の展覧会はこの二つの要素によって作品の表情の変化を存分に楽しんでいただけるはず。新作を含む五〇点あまりの作品が並ぶ会場、しばし時間を忘れて、伊藤隆道のユニークな世界に浸ってください。



伊藤隆道
《回転螺旋・1月》1978年

三岸好太郎美術館

「海を渡った洋画家たち

―北海道洋行事情―

六月三日(土)～七月一日(祝)

三岸好太郎は一九二六(大正一五)年に友人の画家と共に中国を旅行し、当時のアジアで最も西洋的な雰囲気を持っていた上海からは大きな影響を受けました。帰国後にフォービスム風へ画風を変転させ、また、有名な道化のモチーフが登場するようになったのは、上海滞在がきっかけだったと考えられています。北海道では開拓の当初から外国文化を導入してきましたが、特に輸入文化

である油彩画にたずさわる者にとり、海外へ出かけることは極めて重要な条件でした。

明治以降、三岸ばかりでなく多くの洋画家が、フランスを中心とするヨーロッパを含めて洋行や留学をしており、その後の作品に大きな影響を与えています。

本展は、明治から昭和初期にかけての北海道の洋画家達にとって海外に出かけることがいかに重要であったかを、作品を通して紹介するものです。



三岸好太郎《支那の少女》
1926年 北海道立三岸好太郎美術館蔵

旭川美術館

彫刻のある風景

板津邦夫展

七月八日(土)～八月二七日(日)

板津邦夫(一九三一～)は、札幌市生まれ、東京芸術大学に学びました。一九六一年からは北海道教育大学旭川校で後進の指導にあたりました。

旭川に移った六一年以降、本格的に抽象木彫に着手した板津は、早くも六五年には自由美術協会展で第一回自由美術賞を受賞。全国的にも注目を集め、今日まで第一線で活躍してきました。また、道内の抽象木彫の草分け的存在としてその発展に大きな役割をはたしまし

た。木の質感を生かした板津の作品は、北の自然や風物、人間などをテーマとし、生命感をたたえたものやシンボリックなもの、機知に富んだものなど多様でさまざまなすがたや表情をみせています。

本展は、板津の初期から今日までの制作の軌跡をたどる初の大規模な回顧展です。代表的な彫刻作品約五〇点とともに素描や版画作品などもあわせて展覧し、現代木彫作家・板津邦夫の造形世界を余すところなく紹介します。



板津邦夫
「風神・雷神」1990年

函館美術館

子どもたちの夢やあこがれを

描き続けた画家

ぼくらの小松崎茂展

四月一日(土)～五月一日(日)

時代とジャンルを越えて、多くの子どもたちの夢を築いてきた画家、小松崎茂(大正四～平成一三)。昭和二〇年代、大きなブームを巻き起こした絵物語の分野で一世を風靡したのを皮切りに、少年週刊誌の口絵などに描いた未来図や迫力ある戦記もの、さらには、その代表的な仕事となったプラモデルパッケージ、「サンダーバード」をはじめとしたさまざまなキャラクターなど、多くのジャ

ンルで活躍、子どもたちの夢やあこがれを育みました。平成を迎えてからも、CDジャケットなど新たなジャンルに挑み、まさに生涯現役を貫いたのです。

今回の展覧会では、初期の日本画やデッサンから、絵物語、少年誌の口絵、プラモデルボックスなど小松崎の仕事で代表するジャンルの作品、さらには小松崎がメカデザインなどに携わった特撮映画関連資料など、六〇〇余点を一堂に展示

その全貌に迫ります。



《スペースストレイ》
《メカニックファンタジー》原画
1981～

帯広美術館

チエコ絵本と

アニメーションの世界

九月八日(金)～一月八日(水)

チエコ共和国。自然ゆたかな街並みに、音楽祭や人形劇など独特の文化が憧景をさそう中欧の小国です。

この国はまた、絵本・アニメーション文化においても世界的に注目を集めています。二〇世紀初めから、チャペックやラダといった作家が絵本の分野で活躍するとともに、トゥルンカらによる人形アニメーションの先駆、前衛芸術運動との交わりを通じて、独自性あふれる作品が数多く生みだされてきたのです。郷愁と幻想性を混えた画風、

機智に富んだ場面描写、優れた芸術性と多彩な魅力をはなつその作品世界は、国境と世代を越えて、見る人の心をとらえてやみません。

本展では草創期から現在に至る絵本原画をはじめ、書籍、アニメーション作品の上映により、ジャンルの枠組みを超え互いに影響を与え、独自の発展を遂げてきた世界を多角的にご紹介します。固有の伝統と民族性にはぐくまれたチエコの絵本・アニメーション芸術をおたのしみいただけます。



トゥルンカ『こえにだしてよみましょう』表紙原画 1943年～

釧路芸術館

布が伝える 和のこころ

四月二十九日(土)～六月二十八日(水)

江戸期から明治、大正、昭和にかけての、着物や風呂敷、袱紗(ふくさ)などのすぐれたコレクターとして知られる三瓶清子氏の膨大なコレクションのなかから、日本の伝統美とぬくもりを伝える逸品を選びすぐって紹介します。

からむし織りの着物や、機能美を示す仕事着、鮮やかな晴れ着、成長への思いを込めた子ども着などさまざまな着物のなかに息づく和のこころとも



に、伝統的意匠の風呂敷や袱紗などを通して、日本の伝統の中に受け継がれてきた、布の染め、織り、デザインなどにみる細やかな技と感性に触れるものです。時代を経て深みを増したこれらの布の表情を通じ、ものを慈しみ大切にすかけがえのない心をも感じることでしょう。ぜひご鑑賞ください。

芸術の森美術館

紫の雨ー福井爽人の世界

六月三日(土)～七月三〇日(日)

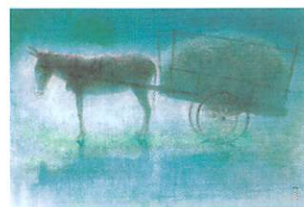
一九三七年、旭川生まれの福井爽人は二歳で小樽、一六歳で札幌へ移住します。札幌北高卒業後に日本画家を志して上京。一九六一年に東京藝術大学入学後、研鑽を重ね、修士課程修了後は、昨年退官して名誉教授となるまで、三八年に渡り同大で後進の指導にあたりました。画業では、院展を舞台に活躍を続けています。

福井は青を主調とした清澄な色彩と繊細な筆致やマティエールによる心象

的風景を数多く描きだしています。

そのイメージにみる静謐で内省的なたたずまいは、観る者の心の内奥を静かにゆさぶり、そこに眠るさまざまな観念や感情をよびおこし、時に瞑想的境地へさえ誘います。

本展では、七〇年代以降の代表作約五〇点を展覧するとともに、その絵画世界と共鳴する画家の詩や随筆など、言葉の世界も紹介します。



《待つ》1994年 高徳院蔵

札幌彫刻美術館

平和への祈り展

三月二十五日(土)～八月二〇日(日)

本郷新には、平和と戦争をテーマにした作品があります。

第二次世界大戦末期、学徒出陣として学業半ばで戦場に向かわざるを得なかった多くの学生の無念の思いを「怒りと悲しみ、煩悶の二つの複雑な性格」に表現した戦没学生記念像『わだつみのこえ』や、多くの市民の命を奪った原爆投下を体験した広島市民が、本郷の作品を見て凄惨な記憶を後世に残す記念像にふさわしいとして設置を懇願した広島市平和公園の『嵐の中の母子像』、一九七〇年代中東戦争等で武器

を持った罪のない人々が家族や家を失う悲しみ、苦しみを表現した『無辜の民』シリーズが代表的な作品です。これらの作品を制作できたのは、戦後平和運動に積極的に参加した本郷に直接制作依頼をしてきた『わだつみのこえ』の場合もあります。毎年出品している新作展に出品するために制作した作品もあります。本郷の日頃の制作の根底には、「反戦、平和のテーマがあったのでしよう。」

彫刻家の立場で作品を通して人々に平和の尊さと、戦争の悲惨さを訴えた本郷の思いをご紹介します。



仏生 無辜の民 1970年

MUSEUM CALENDAR

2005. 9 ~ 2006. 3

美術館の特別展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	4/5~5/14 貸館 伊藤隆道展	5/26~6/4 貸館 水脈の肖像06	6/8~6/16 貸館 JPS展 (日本写真家協会)	6/24~8/20 国宝鑑真和上展		8/29~10/9 パウル・クレー展 創造の物語	10/15~10/26 貸館 北海道立体表現展'06
三岸好太郎	4/1~5/28 <オーケストラ>への路 生きた線描		6/3~7/17 海を渡った洋画家たち 北海道洋行事情		7/21~10/1 青春のしぶき あるモダニストの軌跡		10/7~12/10 モダン建築の夢
旭川	4/8~5/14 谷内六郎の軌跡展	5/20~7/2 ほくらの小松崎茂展		7/8~8/27 板津邦夫展		9/9~10/22 空海マンダラ展	
函館館	4/1~5/14 ほくらの小松崎茂展		5/20~7/9 魅惑のシルクロード展		7/15~8/27 日本近代洋画への道		9/2~10/9 美術館に行こう！ 10/15~12/10 金子鴎亭の書
帯広	4/1~4/19 迷宮美術館 ミステリーツアー	4/28~7/6 バルビゾンから印象派へ			7/15~8/30 魅惑のシルクロード展		9/8~11/8 チェコアニメと絵本の世界展
釧路	4/29~6/28 染・織・くらしに見る 和のこころ			7/8~9/6 パリと画家たち		9/16~11/12 水越武写真展 地平線への夢	
札幌芸術の森	4/15~5/28 北の創造者たち展10th Anniversary Lovely~らぶりい~		6/3~7/30 紫の雨 福井興人の世界		8/6~9/24 GUNDAM 来るべき未来のために		(10月以降は未定)
札幌彫刻	3/25~8/20 平成18年度前期収蔵品展 平和への祈り				8/26~10/9 北の彫刻展2006		10/14~3/26 平成18年度 後期収蔵品展 新制作展と本郷新

● 会員証の利用拡大について ●

平成18年4月1日から貸館展覧会についても協力会会員証による鑑賞が出来るようになりました！

従来、美術館主催の特別展及び常設展に限り会員証の利用ができました。しかし近年、道立近代美術館における特別展の開催が諸般の事情により減少し、貸館展覧会が多くなっている実情であります。このことから会員サービスの向上を目指し4月1日以降の貸館展覧会について会員証で鑑賞できるようになりました。会員の皆様には引き続き、ご鑑賞・ご支援を賜りますようお願いいたします。

第四七回学生美術全道展
 今年度は、絵画・版画・彫刻・工芸の四部門に計三九一点の応募がありました。この中から札幌大谷高校美術科二年、鈴木育美さんの油彩画「万華鏡」が最高賞に選ばれました。

受賞作品「万華鏡」



鈴木 育美

「今の自分」を描きたいと思った。二〇〇五年九月現在の自分。何年後には、いや一瞬先にはもういなくなっているはずの自分だ。自分がいる環境も自分と一緒に変化し続けるだろう。一瞬たりとも同じところにとどまっていけない自分と、それをと

りまく環境。その今しかない瞬間をキャンヴァスに焼きつけたと思った。モチーフを捜すため、母と近所を歩いてみた。変化し続ける時間を感じさせる場所、今だけの自分にとっての効果的な背景。難しかった。気がついたら、カメラを持った母と、早朝の地下鉄の中にいた。動いている地下鉄、打ちよせてはかえす波のような乗降客を見て「あっ、万華鏡だ」と思った。
 変化するものを描き続けたいと思う。

歴代受賞者 (敬称略)		
平成9年	石垣 亜希	希
10年	岡田 拓也	也
11年	森 慶貴	貴
12年	鈴木 千尋	尋
13年	小菅 謙三	三
14年	宮内 ちひろ	ひろ
15年	佐藤 真理子	真理子
16年	近藤 亜樹	亜樹

「北海道美術館協力会賞」とは
 第一回は昭和三五年から始まった学生美術全道展ですが、北海道美術館協力会の事業のひとつとして第二九回(平成九年)より最高賞受賞者に協力会賞の贈呈を行っています。副賞は海外美術研修旅行への招待でした。しかし、第四五回(平成一五年)より諸事情のため、副賞は五万円相当の画材商品券となっております。

新会員紹介

—ご入会ありがとうございました—

2005年8月～2006年2月
 (敬称略)

8 月	旭川市 大須賀 羊 一	岩見沢市 辻 脇 由美子	札幌市 山 本 文 恵	1 月	札幌市 福 士 信 子
"	" 大須賀 順 子	札幌市 " 井 上 透 巴	" 伊 藤 久美子	"	" 竹 内 渥 子
札幌市	菊 地 一 雄	" " 金 子 敦 子	岩見沢市 佐々木 久美子	"	" 永 瀬 一 代
"	" 若 林 久 恭	9 月	10 月	"	" 佐 野 浩 拓
"	" 渡 辺 ま り	札幌市 中 根 慶 之 子	札幌市 菊 池 圭 子	"	" 杉 本 菜 つ み
"	" 倉 重 は る み	" " 丸 山 龍 子	" 大 地 律 子	"	" 林 菜 つ み
"	" 渡 部 次 江	" " 丸 山 多 喜 男 子	石狩市 高 松 愛 理 子	"	" 水 谷 美 織 子
"	" 種 市 誠 次 郎	" " 越 野 智 子	札幌市 高 高 橋 和 静 子	"	" 寺 田 中 悦 子
"	" 佐 野 美 佐 子	弟子屈町 木 村 直 樹	" 高 南 本 孝 子	"	室蘭市 吉 田 恵 一
			" 山 鈴 木 淑 子	2 月	札幌市 田 中 洋 子
			11 月	"	" 細 川 健 子
			札幌市 竹 村 美代子	"	" 大 町 黒 野 泰 明 美 子
			小樽市 西 村 洋 子	"	" 伊 藤 美 奈 子
			札幌市 高 橋 由 行 茂 乃 子	"	" 三 添 村 上 哲 平 子
			旭川市 高 千 葉 春 敦 昌 子	"	北広島市 村 上 井 野 春 裕 子
			札幌市 " 杉 浦 橋 昌 節 子	札幌市	" 横 上 野 部
			" " 高 佐 々 木 丸 山	"	" 阿
			帯広市 丸 山		
			札幌市 丸 山		

A ★ MUSE ★ LAND ★ 2006から



みんなおうちを
 作ろうかなあ

WELCOME

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

来館者の声

A★MUSE★LAND★2006をみて (2005.12/14~2006.1/29開催)

幼い日の恐れを知らない日々^に想いを馳せ、てんとう虫の乗ったオブジェに心ひかれ、鍵を開けた扉の向こうの灯りに心^を和み…。懐かしいおもちゃ箱のような世界を、楽しませていただきました。

札幌市 ^{かみや}神谷 昌江

年会費等詳細は北海道美術館協会 (アルテピア) 札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025
ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>



道立近代美術館
ミュージアムショップ
新商品



片岡球子・絵ハガキ

浅川真紀著「ふわふわなあに」

夕陽の中を美術館…

7月から9月の毎週金曜日(8/25日を除く)、近代美術館は19時30分まで開館します(入館は19時まで)。夕陽の中、ロマンチックな美術館を訪ねてみませんか。



編集だより

今年の冬は、世界各国間の熱きスポーツ交流となったトリノオリンピックの観戦で盛り上がりました。

5月20日からは函館美術館、7月15日からは帯広美術館で、「魅惑のシルクロード展」が開催されます。私達に馴染みの布や器の唐草模様も、その歴史を辿ると実に長く、西アジアからシルクロードを渡り、中国、日本へ伝わり、近代でも様々な応用変化されてきているようです。

今年の春は、「魅惑のシルクロード展」の鑑賞から始まり、遠く遙かな異国の人々との歴史を超えた芸術の交流で盛り上がりたいたいものです。

(Y)